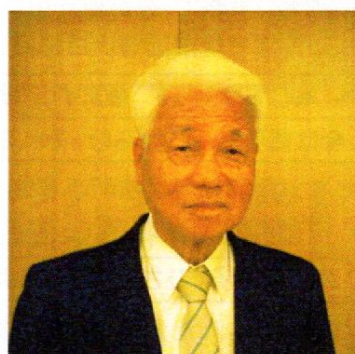


巨星墜つ

南 寿宏



川澤啓三氏（右から2人め）
日本地質学会顕彰式（2006）にて
中央は鈴木堯士本会名誉会員



川添晃氏
環境大臣賞授賞式（2016）にて

高知地学研究会初代会長、川澤啓三氏が、7月19日、ご逝去されました。

先生は、高知大学教育学部をご卒業後、長らく高知県立高等学校理科教員として、須崎高等学校、高知追手前高等学校、佐川高等学校等で教鞭をとられ、高知西高等学校教諭を最後に現役を退かれました。退職後は土佐中学校高等学校、高知大学非常勤講師として勤務され、同時に本会の初代会長として、本会の運営にあたられました。

私は、県立高校教員として勤務した最初の職場で、初めて先生にお会いしました。先生は、まだ右も左も分からない新米に、とても優しく接してくれました。教員として30数年間大過なく仕事をさせていただいたのは、先生のおかげと、深く感謝しております。

高知地学研究会初代副会長、川添晃氏が、7月1日、ご逝去されました。

先生は、高知大学農学部をご卒業後、長らく高知県立高等学校理科教員として、高知小津高等学校、高知県教育センター等で教鞭をとられ、佐川高等学校教頭を最後に現役を退かれました。退職後は高知大学非常勤講師、芸西天文学習館講師として勤務され、同時に本会の初代副会長として、本会の運営にあたられました。

私が県立高校教諭採用されたときは、先生は高知県教育センター第一研究班長でした。私の採用以来、私の指導教員は先生で、教育センターで、実験を主とした地学指導法を熱心に指導してくれました。その私が先生の後任として教育センターに研修主事として赴任したのも、何かの縁でしょうか。

四半世紀前ですが、高知大学の吉倉紳一先生（当時、現、放送大学高知学習センター所長）を中心に高知県内外の地学を愛する人々が集まり、地学の普及を目的とする地学の会を立ち上げようと動き始めました。当時は、バブル経済崩壊の直後の、経済的にたいへん厳しい時期でした。会の創立（1995年3月21日）の直前の1月には、阪神淡路大震災が起きました。創立総会の前日には地下鉄サリン事件がありました。そのような

騒然とした時期に、本会は出発しました。

両先生は、この困難な時期に、私たちの就任希望に応え、初代会長、副会長就任を快諾されました。以後、6期12年にわたり、本会の代表責任者として、私たち後輩を叱咤激励、本会を牽引され、充実した活動を展開されました。その間、総会12回、県内外の巡検23回、会報30号を実現されています。また、県内の地質名所を紹介した絵葉書を発行するなど、普及に向けた取り組みの充実を図られました。2007年、両先生は高齢であるとして、ご勇退を決意されました。私たちは慰留しましたが、両先生の意味は固く、意思を尊重し、両先生はご勇退されました。

ご勇退後も、一会員として本会総会には出席され、ご指導いただいておりますが、この頃、お見かけしないな、お元気かな、と思っていましたところ、今回の訃報を聞き、茫然としております。お見舞いできなかったことが悔やまれます。

今ごろは、お二人で三途の川の地質調査をされたり、天国から星を観測されたりしておられるのでしょうか。そちらから、はやぶさ2は見えますか。将来、私たちがそちらへお邪魔した際、教えてください。

本会は、創立以来、24年が経過しました。前半12年は川澤・川添コンビの創立発展時代でした。後半12年の南・竹島コンビには、その活動の維持とさらなる発展が求められているのですが、はたして、どれだけご期待に添えることができているのか。上界から、両先生のお叱りの声が聞こえてくる思いです。

「南、竹島、何をしておるか。しっかりせよ。」

ご冥福をお祈りいたします。



川澤啓三氏は中央、川澤氏から左に一人おいて川添晃氏
本会総会後の記念写真（会報第32号より2007年7月8日 佐藤慎二氏撮影）